



「社会人力育成山形講座」は、山形県内の多様な教育資源を取り入れながら、国公立の枠を超えた山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携した共同教育プログラムです。これにより学生の社会人力（コミュニケーション力・課題解決力・リーダーシップ）を育成します。各授業の様子や本取組の詳細は以下のホームページに掲載しております。（<http://sodateru-y.jp/>）

授業紹介

山形起業教育科目 「アントレプレナーシップ論」

東北公益文科大学 特任講師 青木 孝弘



日本では昨今、起業促進による産業基盤の革新が国の最重要課題とされ、現在、国内の約半数の大学で起業家教育が行われています。他方、山形県は全国トップの社長輩出率、老舗企業割合も京都に次いで全国2位と、地域に根差した中小企業や自+営業者が多いという産業構造の特徴があります。そこで本講座では、学生ができるだけ社長（起業家）さんと触れ合い、起業を身近に感じてもらうことと、企業や地域が抱えている課題に対して、自分たちで解決策を考えることを重視しています。実際に起業家ヒアリング調査を行った受講生は、「起業にあつては、人との関係づくりとコミュニケーションがもっとも大切」「実際に起業家の話を伺い、テレビのようなドラマはないと思った。それぐらいリアリティがあり、芯の強さをぜひ見習いたい」「起業家は都市部だけではなく、地方でこそ求められてい

る」といった感想を寄せています。

ところで、歴史上初めて本格的な起業家研究を行ったシュンペーターは、「起業家の役割はイノベーションの創出にある」と強調しました。イノベーションは、異質なものとの結合、融合から新しい価値を創造することとされます。この点において、都市部と比べて同質性が強く、流動性も低い地方は不利な環境といえます。本学が立地する庄内地方は、教育機関が限られ、街の中で他大学生と接する機会が殆どないことから、公益大生は次第に内向き、均一的な思考に陥りがちです。その克服に大きく貢献しているのが、大学間連携により単位互換制度を使って受講する他大学生の存在です。本講座には、これまで山形大学から人文学部法経政策学科、人間文化学科、農学部の学生が受講し、「公益」的な思考が強い公益大生に対して、経営的、国際的、農学的な視点から意見やアイデアを提供してくれて、幅広い視野でのディスカッションが可能になりました。この刺激、経験こそが、若者の発想力を豊かにし、向上心を高め、起業マインドを涵養する最良の糧であると確信しています。

受講生の声

私は地域の課題解決、実践に繋がりたいと思い、アントレプレナーシップ演習II（昨年度開講）を受講しました。「地域づくりのコンサルタント」業務を仮想し、実際に白鷹町十王地区に入って、資源調査、「今後どのような地域でありたいか」の全戸アンケート調査、住民の方々との交流・意見交換を行いました。

また、『じゅうおう雪まつり』には受講生全員で参加し、新たに創作した鍋を地域の方々と一緒に振る舞いました。この取り組みでは、私自身が受講生に役割分担を指示して、チームとして動かしていくリーダーシップを

東北公益文科大学 公益学部4年

小野寺 太樹



経験することができました。私は人に「任せろ」ことがとても不安で苦手でしたが、この経験をきっかけに「もっと皆に任せていいんだ!」という実感が得られ、それが今の自分の自信となっています。最近、酒田で「鍋の会」を開いたり、新たな取り組みに繋がっています。今回、地域を勉強するという事は、住民の方々との対話をする事が重要であることを学ぶことができました。受講して本当に良かったです。



グループワークの様子



起業家ヒアリング



地域資源に触れる

【特集】山形講座における単位互換

大学コンソーシアムやまがたでは年2,000以上の単位互換科目が開講され、専門的な科目を中心に、毎年20名近い学生が履修しています。

山形講座で開講する30科目もほぼ全てが単位互換され、今年度延べ75名の学生が大学の枠を超えて学習しています（下図参照）。本講座で単位互換生が多い理由は「山形の魅力の中で社会人力を育成する」授業内容にあると思われます。その他にも、時間外での開講（夕方・週末・休暇中）、各大学で行う積極的な受講生募集、大学間の長距離移動費の支援制度など運営上の工夫も挙げられます。

（注：支援制度は本講座のみならず各大学の既存の科目も対象となるため、今後活用する学生の増加が見込まれます。）

これら単位互換は学生の学びの幅を広げるだけでなく、異なる背景を持つ学生が交流するなど、学びの質へも強く影響します。特に、学生が積極的に活動し共同作業を行う体験型科目では、影響が大きいはずですが、これまでの単位互換は座学主体の専門的な科目が主だったため、体験型科目での教育効果への影響は報告がありません。

そこで、今号のニュースレターでは、単位互換による教育への影響として（教職員の最も強力な原動力となる）学生の「生の声」をお届けいたします。併せて教育者から見た単位互換の影響について、山形講座担当教員の所見も掲載いたします。

他大学で受講した学生の声

●他大学の授業ということで、自分の専門分野以外の関心があることに挑戦できます。興味はあったけどやることがなかったことに取り組むのが楽しくて、積極的に単位互換を活用しました。また、他大学の授業に飛び込むからこそ様々な出会いがありました。出会った受講生やNPOの方の中には今でも繋がりがあられる方もおり、ずっと仲良くしていきたい仲間もできました。他大学への移動は少し大変ですが、それよりも素敵な体験ができることに感謝しています。

（東北文教大学4年、受講科目：感じる山形1、2・地域デザイン in 東沢バラ公園・実践的コミュニケーション学・地域と経済）

●他の大学の方と関われるのは、新しい考え方、感性に触れることができる貴重な機会でした。同じ大学内だけだと、考え方ややり方がマンネリ化してしまっていたので、とても刺激的でした。授業外で打ち合わせや作業をするときは、カフェやファミレスで行いました。環境を変えて活動することができたのも違う大学だからこそだと思います。足を使って、五感を使う楽しい授業が多かったです。もっと多くの授業をとりたいかったです。

（東北芸術工科大学4年、受講科目：感じる山形2・地域デザイン in 東沢バラ公園・実践的コミュニケーション学・山形を元気にする企業家に学ぶ）

●私は1年生の時にリーダーシップ論を受講していた。授業では企業のトップなどのリーダーと呼ばれる人達の話聞き、それに対して思ったことを質問したりグループで討議するという形のものが多かった。リーダーの話聞いて自分の価値観が変化したこともあった。また、グループ討議では他大の学生と交流して様々な刺激を受けた。このような体験は単位互換の授業でしか得られない機会だと思う。この授業はその後の私の大学生生活に大きな影響を与えたので、1年生の時にこの授業を履修して本当に良かったと思っている。

（東北公益文科大学2年、受講科目：リーダーシップ入門1、入門2、応用1、応用2・「課題解決」入門）

●他大学の授業を専攻することはとても刺激的だった。専攻している学問が違うだけでこんなにも向いている方向が違うのかと、発見の繰り返しだった。今回私はリーダーシップという授業を受講して、たくさんの人と話し、様々な人間性について多くを学ぶことができた。人に自分の考えを伝えることの大切さと難しさを感じながら、目標に向かって突き進む力を身に付けられた気がした。初めは少しの好奇心だけであつたが勇気を出して新しい環境へチャレンジしてみた良かったと思った。

（東北芸術工科大学3年、受講科目：リーダーシップ入門1、入門2、応用2）



【山形講座の単位互換者数】

（H26年度前後期、聴講生を含む） 赤字は開講科目、青字はアドバンスト山形講座

●単位互換制度は、他大学の学生と切磋琢磨しながら学んだり、共同で作業したりすることができ、様々な経験を積むことができます。また、他大学の授業を受講することによって、所属大学ではできない事を体験することができます。学びを更に深めることができます。所属大学の講義を受けながら週末に開講される講義を受講するために酒田と山形を往復したことは大変でした。しかし、単位互換制度を活用したことによって、多くのスキルを身に付け成長することができたと思います。多くの学生が単位互換制度の活用を期待します。

（東北公益文科大学3年、受講科目：導入授業、感じる山形1、2・エコスタジアムプロジェクトを考へよう・「山形ほっぺ隊」と仙山交流を考える・リーダーシップ応用1）

●「実践的コミュニケーション学」のため、普段の平日よりも早く起きて山形に行く。これを有難いことと思うのは、この講義でしか感じられない面白さと難しさを知っているからだ。

この授業は、一方的に与えられたことをこなすのではなく、受講生が自分たちで考えプロジェクトを進めていく。自ら考えて実際に行動することの責任感、山生や芸工大生、それぞれのユニークな意見に圧倒されつつ、それらをまとめる難しさも同時に学ぶことができる。最低限のことをしていても成り立つが、いいものを求めようとするほどいいものを得られる。ここに面白みを感じている。

（米沢女子短期大学2年、受講科目：実践的コミュニケーション学・リーダーシップ入門1、入門2、応用1）

他大学生がもたらす学習効果

最も期待できる学習効果のひとつが、多様な背景を持つ人々との「協働」のスキルを得られることです。複数の専門性へ直に触れることで受講生自身の基準を、受講生自ら引き上げられることになるからです。論理的にアプローチする傾向の強い学生、直感的にアプローチする傾向の強い学生といった形で、所属大学の特徴が受講生の個性として現れます。そして、グループワークが、役割分担と多様な意見をぶつけ合う場所として発揮されます。必ずしも初めから「協働」

が上手くはいきませんので、相手を理解できない状況や問題を乗り越えることが困難な状況を経験します。これは社会に出れば必ず経験し、直面する出来事のひとつです。本講座での小さな成功体験・小さな失敗体験を複数回得ることで、社会人力の要素である、コミュニケーション力・課題解決力・リーダーシップを発揮するために必要な知恵を養うことができます。

（東北芸術工科大学・講師 池田知之）

スタッフ紹介

山形大学
教育・学生支援部
教務補佐員

庄司 有里

教務補佐員として山形講座にこれまで携わってきて、学生達と共にする時間は少ないですが、一緒に多くのことを学ばせていただきました。米国の心理学者であるウィリアム・ジェームズは、「意識(心)が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる」と残していますが、まさに学生達と「変わる」時間を共有しているのではないかと感じております。学生達と共に「変わる」ことを楽しみに、先生方と共に「変える」山形講座となりますよう日々努めていきたいと思っております。

【編集・発行】 大学コンソーシアムやまがた・山形人材育成委員会（山形大学教育・学生支援部サテライト）

〒990-0039 山形県山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1F
TEL:023-641-2681 FAX:023-641-2682 e-mail:sodateru-y@jim.kj.yamagata-u.ac.jp

山形人材育成委員会

山形大学・山形県立保健医療大学・東北芸術工科大学・東北公益文科大学・東北文教大学・山形県立米沢女子短期大学・羽陽学園短期大学・東北文教大学短期大学部・鶴岡工業高等専門学校・山形県立産業技術短期大学校・山形工科短期大学校・山形県・山形市長会・山形県町村会・山形県商工会議所連合会・山形県商工会連合会・山形県中小企業団体中央会・（一社）山形県経営者協会